



60

飛禽走獸文鏡
ひきんそうじゅうもんきょう

一点(三)の丸高蔵館

出土地不明

青銅製 径二一・五

中国 魏

中国の魏において鑄造された青銅鏡である。出土地は不明であるが、旧所蔵者が最後の高知藩主であった山内豊範であり、明治八年(一八七五)に皇室によって買い上げられたことが判明している。

鏡面がきつく反った凸面鏡であり、鏡背面には鈕(紐を通すためのつまみ)が中央に配され、その周囲に神仙世界が表現されている。一段高くなっている外周(外区)には光線を表現したと思われる鋸歯文を三重に配し、一段低くなったその内側には半円方形帯が配され、方形の中には銘文が記されている。さらにその内側には内区の主文様がみられる。内区は六つの半球形の乳(突起)によって区画されており、各区画に飛禽走獸文がみられる。

本鏡は初期の三角縁神獸鏡と密接な関係があることが指摘されており、三角縁神獸鏡の成立過程を考えるうえで重要な資料といえる。なお、同範鏡(同じ文様の鏡)が岡山県郷観音山古墳から出土している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古代の造形——モノづくり日本の原点

三の丸尚蔵館展覧会図録No.78

編集 宮内庁書陵部

宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十九年九月二十三日発行

© 2017, The Archives and Mausolea Department
The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shōzōkan
Imperial Household Agency